

埼玉県立熊谷図書館における農業ビジネス支援の提案

ー“儲かる農業”を支える図書館にー

五十嵐 雪将

埼玉県立熊谷図書館

1 はじめに

埼玉県立熊谷図書館では、ビジネス支援サービスを重点サービスと位置付けて、就業、起業、スキルアップ等の課題解決支援に取り組んでいる。本レポートでは第 25 回ビジネス・ライブラリアン講習会の内容を踏まえ、埼玉県の課題に沿った形でのサービス拡充を検討し、埼玉県立熊谷図書館が“儲かる農業”を支える図書館になることを提案する。

2 事業の背景

(1) 国・埼玉県の現状

国や埼玉県の農業を取り巻く現状が厳しい一方、“儲かる農業”を支援する体制が求められている。現状について、国の『食料・農業・農村白書 令和 7 年版』ⁱでは、農業を国の根幹たる部分と位置付けつつ、「国際情勢の不安定化や気候変動による異常気象の頻発化、人口減少や高齢化」といった問題点を指摘している。これは埼玉県においても同様である。『埼玉県 5 か年計画～日本一暮らしやすい埼玉へ～（令和 4 年度～令和 8 年度）』ⁱⁱ（以下『5 か年計画』と呼ぶ）では、「新規就農者や女性農業者など多様な担い手を確保することや熟練農業者の技術や知識が見える化し、次の世代へ伝承していくことが必要」と説く。

一方で対応策については、国、埼玉県ともに“儲かる農業”が必要だとしている。国の「経済財政運営の改革と基本方針 2025～「今日より明日はよくなる」と実感できる社会へ～」ⁱⁱⁱは「2. 地方創生 2. 0 の推進及び地域における社会課題への対応」において、農林水産物の輸出額やインバウンド消費などで稼ぐ力を高めたり、「農林水産業の構造転換による成長産業化及び食料安全保障の確保」を提唱したりしている。呼応するように埼玉県の『5 か年計画』でも、「稼げる力の向上」「儲かる農林業の推進」を 12 の針路の中に挙げており、埼玉県で“儲かる農業”を醸成することが求められる。

農業従事者やその支援機関での取組については、『5 か年計画』では「ドローンを活用した生育状況の診断」や「農業経営の法人化」といった施策が挙げられている。これらの課題に対応する農業技術や統計情報など分野を横断した情報を整理し、必要な人に情報が届く環境が求められている。当館はこの部分で貢献すべきであると考える。

(2) 埼玉県・埼玉県立熊谷図書館の持つ力

ア 埼玉県の特長

埼玉県は東京都に隣接する県であり、かつ大消費地であるという特徴を持つ。その一方で、県産品にはいちごの「あまりん」、梨の「彩玉」といったブランド力を持つものや、里芋や

ねぎなど産出額で全国的に秀でたものなどがあり、生産地としての力も持っている。

イ 熊谷にある図書館としてのポテンシャル

そんな埼玉県の中で、埼玉県立熊谷図書館は県北地域の熊谷市に位置している。県庁所在地のさいたま市から離れているが、熊谷市は県内に 2 つしかない新幹線の駅が設置されており、県内外問わずアクセスしやすい土地である。同市は県内でも有数の人口を誇る一方、ねぎやかぶなどの生産地でもある。熊谷図書館の隣には JA くまがや本店や農産物直売所のふれあいセンター箱田店があり、図書館と農業の拠点がすぐそばにある。また、市内には農業技術研究センター、埼玉県農業大学校、埼玉県立総合教育センター江南支所（農業・環境教育の拠点）といった農業関係の施設も設置されており、専門機関との連携をしやすい環境にある。

ウ これからの熊谷図書館に求められる姿

埼玉県立図書館のビジネス支援サービスは平成 16（2004）年に始まった浦和図書館でのサービスに端を発す。平成 27（2015）年度よりサービスの拠点を熊谷図書館へ移した。それまでの県庁や裁判所、土業の事務所に囲まれた環境から、より農業が身近な環境へ移ったといえる。

加えて県立図書館は、市町村立図書館では直接整備しづらい県全域の情報をまとめ、県民が必要とする関係機関へつなぐ役割を担うことができる。

このような背景から熊谷図書館がより重点的に取り組むべき事業は、農業ビジネス支援だと考えられる。浦和図書館から続くビジネス支援サービスにおける経験や資料を素地に、熊谷市に環境を移したことを生かして、県全体の課題解決へ資する図書館となることが望ましい。

3 事業案

（1）概要

本事業は、県内の農業関係者にとって図書館が必要とされるように、分野を横断する情報を整理し、情報収集にとどまらず、実際に生産者と消費者が交わる機会を提供するものである。まずビジネス支援室に「農業ビジネス支援」のコーナーを設置し、既存資料を再整備する。次に活用事例を収集し、ウェブで公開し、潜在的利用者への周知を図る。そして「県庁朝市 in 熊谷図書館」を開催し、農業の 6 次産業化^{（注）}等に携わる人の支援につなげる。

（2）目的・効果

“儲かる農業”を埼玉県で実現できるよう支援することは、生産者の収入増加、経営安定化につながるのはもちろんのこと、若年層の就農増加や遊休農地の減少も期待できる。また消

費者にとっても、「あまりん」に代表されるような県産品の認知・購入機会の拡大となり、流通・販売の工夫による価格面のメリットを享受することも期待できる。これらが埼玉県での暮らしやすさにつながれば、人口減少や高齢化に伴う地域経済縮小といった問題への対応が見込まれる。

また、農業ビジネスに図書館が関与することで、県民が図書館は読書のためだけではなく、課題解決のための機関でもあることを認識するきっかけとなる。

（３）対象者

本事業の対象者は主に下記の三者とする。

ア 既に農業に携わっている人

農業に携わっている人には、市町村立図書館と県立図書館を使い分けて、どちらも活用できるよう案内する。実際に利用者自身が図書館を使い分けた事例として、香川県の農家が著した「町の図書館と電子図書館で課題を克服する」^{iv}が有用である。県立図書館の郷土資料や町立図書館にリクエストした実用書が紹介されている。

イ 農業に関心がある人

新規就農や事業承継など、農業に関心がある人には、農業ビジネスの資料、創業や経営に関する基礎資料も有用である。県立図書館のビジネス支援サービスとして重点的にアプローチしたい対象者である。

ウ 一般消費者

一般の消費者も大切な対象者である。消費者が県産品や地域の取り組み・事情に触れる機会を増やすことにより、地域経済の循環を促す効果が期待できる。

（４）具体策

ア １階ビジネス支援室に「農業ビジネス支援」コーナーを設置

当館は１階から３階まで、各階に閲覧室とカウンターが分かれており、１階のビジネス支援室に創業・経営に係るビジネスの図書や雑誌、２階に農業の一般的な雑誌や図書、３階に新聞や郷土資料と、関連情報の配架場所も分かれている。そこで利用者の動線を意識した情報の整理が必要である。

まず、ビジネス支援室に「農業ビジネス支援」のコーナーを設置し、農業の６次産業化や経営に関する資料を現在より目立たせる。併せて『現代農業』『季刊地域』等の雑誌もコーナーの近くに配架し、情報源を集約する。一方、スペースの観点からビジネス支援室には集約できない農業技術の図書、『日本農業新聞』の原紙、郷土資料などは、コーナー内に所在や利用方法を示し、館内で情報が得られることが分かるようにする。

イ パスファインダーの作成

次に、補助金制度や法人化など、相談が想定される事項をまとめたパスファインダーを作成し、配布やウェブ公開を行う。パスファインダーには当館でできることだけでなく、利用者が直接相談できる機関として、熊谷市内にある農業技術研究センター、埼玉県農業大学校などを紹介し、適切な機関利用を促す。ウェブ公開は農業経営に関心のある人の検索や生成 AI の情報収集に寄与し、潜在的利用者の掘り起こしを目的として実施する。

ウ 活用事例の紹介

併せて、図書館活用による就農や経営改善例を利用者にインタビューし、ウェブページで紹介する。利用者の行動モデルとして、人間はもちろん生成 AI を用いた情報収集にも役立つ事例を紹介する。その際、個人情報に配慮し、特定の事業のみを過度に強調しないものを目指す。他機関の活用事例があれば、先述のパスファインダーをウェブ公開する際にその紹介も行う。これは、図書館ができることと専門機関ができることはどのように違うのかを利用者目線で明確化したいからである。

エ 「県庁朝市 in 熊谷図書館」の開催

以上の取組を踏まえ、本事業の核として「県庁朝市 in 熊谷図書館」を行う。既にさいたま市内で「県庁朝市」を実施している埼玉県農業ビジネス支援課等と連携し、図書館敷地内にて開催する。天候や安全面、小山市立図書館や紫波町図書館の事例を踏まえると、館内ロビーや 1 階鑑賞室等での実施が現実的と考える。朝市は単なる販売機会にとどめず、図書館からもレシピや商品開発の資料展示、前述のパスファインダー配布等で利用者が情報を持ち帰れるようにする。生産者に対しては資料活用や専門機関へのレフェラルサービスを通じて、6 次産業化を推し進める。隣接する農産物直売所等とも情報発信や参加者募集で連携を図る。

また開催の準備段階として、既にさいたま市内で行われている「県庁朝市」に図書館が出展し、開催している農業ビジネス支援課や既出展者との関係構築を行う。いきなり開催すると言っても成功に導くのは難しいので、まずは既存のイベントでの関係作りから「県庁朝市 in 熊谷図書館」の開催へと導く。ほか、JA くまがやのイベントや埼玉県立総合教育センター江南支所での研修など、図書館が関与できる部分を模索して、「県庁朝市 in 熊谷図書館」をより確実に開催できるようにする。

オ アンケート調査による継続的な効果測定

事業実施に際しては、アンケート調査を行い、コーナーやパスファインダーに求める情報分野を把握し、資料の入替や新たなパスファインダー作成の参考とする。評価指標は単に満足度や来場者数を図るだけでなく、図書館がどのように農業ビジネスに役立ったのかを確

かめる。具体的には実際に利用した図書館資料や専門機関、その成果としての就農や商品開発の事例を先述のウェブページ作成や事業のアンケートで収集することで、図書館活用の先にどんなことがあったかを追っていく。

4 おわりに

図書館におけるビジネス支援サービスは、日本では四半世紀ほどの歴史を持つようになったが、未だに世間一般のイメージとして定着していないことは、今回の講習会の講義はもちろんのこと、自分の経験からも感じられる。ある自治体の一般行政職を受験した際、面接で産業関係の課に入って、図書館と連携して振興していきたい旨をアピールしたが、全く相手にされなかった苦い経験がある。

私自身はこれまで「読書」を強く求めたことは無いが、図書館が調べものや仕事のことを考える上で役立ったと感じることはある。読書をしたいと感じる人は自然と図書館に赴くかもしれない。しかし、読書をしない人が増えている中で、その人たちにも図書館を活用してもらわないと、公共図書館としては納税者に対して十分なサービスが提供できているとは言えないだろう。

その中で、ビジネス支援サービスは人が生きることに直接資するサービスであり、地域の特性を踏まえて農業にアプローチすることは、納税者たる県民への真摯な対応として当然のことなのではないだろうか。学生時代に台湾の図書館で実習を行い、異なる環境で図書館がどのように存在しているか目の当たりにした。台湾では日本の漫画や小説の現地版資料の配架があったり、健康に暮らすための運動スペースがあったりと、市民のニーズに合わせたサービスを見てきた。今、日本の図書館で働く身として、自分は本当に日本、埼玉県の住民に対してだからこそその図書館サービスができていいのか、今一度再考する機会として、本稿を閉じる。

引用文献

- i 農林水産省編『食料・農業・農村白書 令和7年版』（農林統計協会 2025）
- ii 埼玉県企画財政部計画調整課 [編]『埼玉県5か年計画～日本一暮らしやすい埼玉へ～（令和4年度～令和8年度）』（埼玉県 2022）
- iii 内閣府「経済財政運営の改革の基本方針 2025 ～「今日より明日はよくなる」と実感できる社会へ～」（内閣府 2025
https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/honebuto/2025/2025_basicpolicies_ja.pdf)
- iv 豊嶋和人著「町の図書館と電子図書館で課題を克服する（第6回 農業が面白くなるルール電子図書館）」（『現代農業 2021年8月 51-5』p278-281 農山漁村文化協会 2021.8）

(注)

「6次産業化」

引用文献 ii 埼玉県企画財政部計画調整課 [編]『埼玉県 5 か年計画～日本一暮らしやすい埼玉へ～(令和4年度～令和8年度)』(埼玉県 2022) p156～157「強みを生かした収益力ある農業の確立」にて言及あり。

p157「農業者が農産物の生産(1次産業)に加え、加工(2次産業)や流通・販売(3次産業)にも主体的に関わり、農業経営に新たな付加価値を取り込むこと。1次×2次×3次=6次産業。」とあり。

参考文献

図書

- 1 埼玉県立熊谷図書館編『令和7年度要覧』(埼玉県立熊谷図書館 2025)

雑誌記事

- 1 大塚由香利著「地域に根差したビジネス支援 小山市立中央図書館の農業支援サービス」(『みんなの図書館 2014年4月 444』p26-29 図書館問題研究会 2014.3)
- 2 那須雅熙著「公共図書館の農業支援サービス」(『日本農学図書館協議会誌 2016年12月 184』p11-19 日本農学図書館協議会 2016.12)
- 3 編集部著「岩手から 同じ建物内の直売所に本の「ポップ」 農家・農業を応援する図書館」(『季刊地域 2013年秋 15』p119 農山漁村文化協会 2013.11)
- 4 水野隆史文「輝く図書館4 司書が出向く「出張としょかん」農家へ学校へ商店街へ 岩手県紫波町 紫波町図書館」(『季刊地域 2021年秋 47』p141 農山漁村文化協会 2021. 11)
- 5 「公共図書館が都市戦略の要に 地域の拠点として存在感増す」(『日経アーキテクチュア 2025年10月23日 1298』p28-31 日経BP社 2025.10)

新聞記事

- 1 「ウェルビーイング特集 幸福度向上へ 自治体挑む 三島市／岩手県紫波町」『静岡新聞 2026年3月10日 朝刊 24面』

ウェブページ

- 1 《今治市で「学校給食 × 図書館 × 食農育体験」をつなぐ - 有機のある未来展 - が開催中 | えひめ食農デザイン株式会社のプレスリリース》
(<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000005.000174332.html> PR TIMES)
- 2 《県庁朝市について》

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0902/kentyou-asaiti-kaisai/index.html> 埼玉県)

3 《埼玉県推計人口(月報データ)》

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0206/03suikei/geppou01.html> 埼玉県)

4 《埼玉県農業大学校》(<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0921/index.html> 埼玉県)

5 《農業技術研究センター》(<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/> 埼玉県)

ウェブページは全て 2026 年 3 月 17 日参照。